

【地域・在宅看護論】

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ (暮らしを支える看護)		対象学年・時期	1 学年・後期
			単位数	2
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 個人・家族を支える環境としての地域を理解する 2. 個人・および家族の暮らしを理解する 3. 自らの健康を維持できるよう継続的に暮らしを支える看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1 回 2 回	1. 地域で生活 する人々の 理解	1) 個人の生活構造と地域特性 (1) 暮らすということ (2) 地域の全体像の系統的把握 (3) 地位の「強み」「弱み」 2) 健康支援活動 (1) ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケア、 ソーシャル・キャピタル (2) 健康課題を解決するための支援技術 健康教育、患者教育、生活の場へのアウトリーチ グループダイナミックス		*アクティブラーニング 講義
3 回 4 回 5 回	2. 地域の生活環境が健康に与える影響	1) 文化的環境: 歴史や文化 2) 社会的環境 : 交通網や近隣都市との関係、産業構造や人口構成 3) 自然環境: 地形や気候		講義 フィールドワーク コミュニティ・アズ・パートナーモデル
6 回 7 回	3. 地域・在宅看護論の対象	1) 個人・家族、集団、組織、地域 2) 健康状態(健康の良い状態～終末期まで) 3) 発達段階(胎児期～老年期まで)		講義
	4. 家族の役割	1) 家族の捉え方 (1) 家族理解のための基礎理論 家族発達理論・家族システム理論・家族ストレス対処理論 2) 家族の機能と役割 (1) 家族の変遷と現状		講義 演習
8 回 9 回	5. 健康と暮らしを支える看護	1) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 (1) 地域包括ケアシステムの背景 (2) 地域包括ケアシステムの機能 (3) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 2) 自助、互助、共助、公助の意義と役割 (1) 自助、互助、共助、公助の意義 (2) 自助、互助、共助、公助の役割と実際 3) 家族を支える看護 (1) 家族の健康 (2) 家族を支援する目的 4) 多職種連携、協働の意義と方法		講義 フィールドワーク

10回 11回	6. 看護が提供される多様な場の理解	1) 看護が提供される多様な場とその根拠 (1) 地域における暮らしを整える看護 (2) 地域・在宅におけるライフサイクルに応じた看護 ①行政における地域看護活動 ②学校保健分野における看護活動 ③働く場における産業看護活動 (3) 介護予防分野における看護活動 (4) 地域での暮らしにおける災害対策、 (5) 地域での暮らしにおける感染症対策(新興感染症)	講義 フィールドワーク
12回 13回	7. 地域・在宅看護論に関連する法制度と施策	1) 医療保険、介護保険制度と施策 2) 訪問看護における法や施策 3) 権利保障に関する法や施策 4) 各保険、障害者等に関する法と施策	講義 演習
14回	8. 地域で暮らし続けることを支援するマネジメント	1) 自己決定支援(ACP含む) 2) ケアマネジメント (1) ケアマネジメントの定義と目的 (2) ケアマネジメントの展開 3) 保健行動と行動変容 4) インフォーマルネットワークの維持	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験、課題提出		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院		
参考文献	河野あけみ他: 在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他: 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向		

【地域・在宅看護論 I】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ (在宅療養を支える看護)		対象学年・時期	2 学年前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師 ★		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 地域における在宅看護を理解する 2. 在宅看護における看護の機能と役割を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 地域における在宅看護	1)在宅看護の位置づけ (1)在宅ケアと在宅看護 2)在宅看護が提供される場 (1)外来看護 (2)訪問看護 (3)施設での看護 (4)通所サービスでの看護	*アクティブ ラーニング 講義 DVD	
2回	2. 社会の変化と在宅看護	1)在宅看護を必要とする社会的背景 (1)在宅看護の歴史的変遷 2)社会の要請から求められる看護 (1)在宅看護と今後の動向	講義	
3回	3. 在宅看護の対象と目的	1)在宅看護の対象 (1)法制度からみた対象 (2)ライフサイクルからみた対象 (3)疾患からみた対象 (4)障害レベルからみた対象 (5)状態別、状況別からみた対象 2)在宅看護の定義と目的	講義 グループワーク	
	4. 在宅看護の特性	1)在宅看護の目的 2)在宅看護の対象 3)在宅看護の方法	講義	
4回	5. 在宅看護の機能と役割	1)療養者と家族の健康と生活上のリスクを回避した療養生活上の安定・安全 2)対象者の健康問題に対する主体的な取り組み 3)災害発生時の在宅療養者と家族の健康危機 4)家族のセルフケア機能を高めたエンパワメント 5)支え合う地域社会の構築	講義 グループワーク	
5回	6. 在宅における自己決定と生活の自立支援	1)療養者の権利擁護 (1)権利行使のための自己決定支援 (2)法的制度活用による権利擁護 ①後見人制度 ②虐待防止法 ③個人情報保護 (3)サービス提供者の権利の保護	講義 グループワーク	

6回	7. 家族介護者の理解と健康支援	1)在宅療養者の想いと家族介護者の思い 2)介護している家族のアセスメント (1)家族アセスメントモデル 3)家族関係の調整 4)介護方法の指導 5)介護している家族の健康支援	講義 グループワーク
7回	8. 在宅看護にかかわる法令・制度の活用	1)在宅療養における多職種との連携とケアマネジメントの実際 (1)多職種との連携 (2)社会資源の活用	講義 グループワーク
8回	終講試験		
評価方法	筆記試験、課題提出		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院		
参考文献	河野あけみ他:在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他:地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向		

【地域・在宅看護論Ⅱ】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護援助技術		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師		時間数	30
			講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護活動を支えるコミュニケーション技術を習得する 2. 在宅看護に共通する技術を習得する 3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション	1) 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション (1) コミュニケーション能力のアセスメントのポイントと援助方法 (2) コミュニケーション障害の種類と援助方法 (3) 家族とのコミュニケーションと援助方法 2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント (1) コミュニケーションをとる際の基本姿勢 (2) 多職種連携		*アクティブラーニング 講義・DVD グループワーク ロールプレイ 演習
3回 4回 5回	2. 在宅看護に必要な技法	1) ヘルスアセスメント 2) 自立支援技術 3) 安全を守る技術 4) 感染予防 5) 災害に対する準備と対応		講義・DVD グループワーク ロールプレイ 演習
6回	3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護	1) 褥瘡の予防とケア (1) 褥瘡発生のリスクアセスメントと発生予防 (2) 褥瘡のアセスメントと処置 (3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択		講義・DVD
7回		2) 尿道留置カテーテル (1) 対象者 (2) 在宅での管理方法 (3) 合併症の予防		講義・DVD
8回		3) ストーマ（人工肛門・人工膀胱） (1) 対象者 (2) 生活の工夫 (3) 合併症の予防		講義・DVD 演習
9回		4) 胃瘻・経管栄養法 (1) 対象者 (2) 栄養剤の種類と特徴 (3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 5) 在宅中心静脈法（HPN） (1) 対象者 (2) 栄養剤の注入方法と評価 (3) 合併症の予防		講義・DVD
10回		6) 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） (1) 対象者 (2) 人工呼吸器の原理・構造 (3) 気道の浄化 (4) 合併症の予防 7) 在宅酸素療法（HOT） (1) 対象者 (2) 機器の種類 (3) 合併症の予防 (4) 安全管理と援助		講義・DVD

		8) 在宅人工呼吸療法 (HMV)と排痰法 (1) 対象者 (2) 人工呼吸器の原理・構造 (3) 気道の浄化 (4) 合併症の予防	
11回 12回		9) 薬の自己管理支援 (1) 服薬状況の把握 (2) 医師及び薬剤師との連携 (3) 外来通院中の在宅療養者に対するケア (麻薬・化学療法)	講義
13回		10) 疼痛緩和 (1) 在宅における疼痛緩和ケア (2) 疼痛緩和ケアの適応	講義
14回		11) 排便コントロール (1) 排泄状況と障害 (2) 便秘の予防と援助(摘便) (3) 尿・便失禁の援助 12) 腹膜透析	講義・DVD
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論② 医学書院		
参考文献			

【地域・在宅看護技術】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅で療養する対象の看護	対象学年・時期	2 学年前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴を理解する 2. 療養の場の移行に伴う看護を理解する 3. 在宅で療養する対象の状況に合わせた看護を理解する		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回 2回	1. 在宅看護の展開方法	1) 情報収集とアセスメント 2) 家族機能評価 3) 在宅看護の目標設定と看護計画 4) 実施・評価	講義 グループワーク
3回 4回 5回	2. 療養の場の移行に伴う看護	1) 退院支援・退院調整 2) 入退院時における医療機関との連携 (1) 地域連携パス (2) 外来・地域連携部門との連携 (3) 他職種との連携・協働 3) 入退所時時における施設との連携 (1) 地域包括ケアシステム (2) チームケアの意義と実際 (3) ケアマネジメント	講義 グループワーク 演習
6回	3. 訪問看護ステーション利用のしくみ	1) 退院支援・退院調整 2) 入退院時における医療機関との連携 3) 入退所時時における施設との連携	講義
7回	4. 在宅療養者の状態に応じた看護	1) 在宅で療養する高齢者とその家族 (1) 高齢者の特徴 (2) 高齢者の特性に由来する問題 (3) 高齢者の在宅看護のポイント	講義
8回	5. 療養生活の中で起こる問題と対策	2) 在宅で療養する小児とその家族 (1) 在宅療養児の動向 (2) 在宅療養児の主な症状と状態 (3) 家族への支援 (4) 社会資源・関連機関とのサービス調整	講義
9回		3) 精神障害で療養する対象者とその家族 (1) 精神疾患を有する人への訪問看護の動向 (2) 訪問看護の対象となる主な精神疾患の特徴と治療 (3) 精神疾患を有する人・家族が抱える問題 (4) 社会資源の活用 (5) 精神科訪問看護の機能と課題	講義
10回 11回		4) 難病で療養する対象者とその家族 (1) 難病とは (2) 訪問看護の対象となる主な難病、神経疾患 (3) 神経難病を患う療養者の特徴 (4) 難病を患う療養者の在宅療養支援のポイント	講義 演習

12回 13回		5) 慢性疾患で療養する対象者とその家族 (1) 在宅で療養する慢性疾患療養者の動向 (2) 在宅で療養する慢性疾患療養者の特徴 (3) 在宅で療養する慢性疾患療養者の日常生活上の援助 (4) 在宅で療養する慢性疾患療養者の家族への支援 (5) 社会資源の活用と地域における看護職の役割	講義 演習
14回		6) 終末期にある対象者とその家族 (1) 在宅における見取りの看護の理解 (2) 在宅における見取りにおいて看護職に求められる能力 (3) 在宅における見取りの看護の実際 (4) チーム医療・チームケアとの連携 (5) 家族支援とグループケア	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院		
参考文献			

【地域・在宅で療養する対象の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護論演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 在宅の対象者への日常生活援助と対象の機能の維持・向上に向けた支援を理解する 2. 在宅看護の展開方法を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	初回訪問	1) 訪問看護におけるマナー 2) 初回訪問を計画 3) 初回訪問を計画ロールプレイ		講義 グループワーク ロールプレイ
3回 4回	1. 在宅における生活支援の方法	1) 日常生活の援助 (1) 呼吸に関する在宅看護 (2) 食生活・嚥下に関する在宅看護 (3) 排泄に関する在宅看護 (4) 移動・移乗に関する在宅看護 (5) 清潔に関する在宅看護 2) 介護用品の活用		講義 グループワーク 演習
5回 6回	2. 在宅における身体機能の維持向上に向けた援助	1) 身体機能の評価 2) 家庭で行うリハビリテーション 3) 多職種との連携		講義 グループワーク
7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回	3. 事例による看護過程の展開	1) 在宅看護過程展開の特徴 (1) 情報収集 (2) アセスメント (3) 看護計画 (4) 実施 (5) 評価 2) 対象の状態に合わせた適切な援助計画 (1) ケアマネジメント: 社会資源の活用/多職種との連携 (2) 生活の場 (3) 療養者及び家族支援 (4) 在宅における安全性の確保 3) 事例の看護 (1) 脳血管障害後遺症のある療養者(回復期) (2) 難病で在宅療養をしている療養者(慢性期) (3) がん終末期の療養者(終末期) * 事例を選択して、看護過程展開を行う。		講義 グループワーク ロールプレイ
評価方法	看護過程展開提出物・課題提出物			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院			
参考文献	河野あけみ他：在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア (メディカ出版) 押川真喜子監修：写真で分かる訪問看護アドバンス(インターメディカ) 国民衛生の動向			

【地域・在宅看護論演習】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	-------	---------	-----------

授業科目	地域・在宅看護論実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	地域・在宅のさまざまな場で療養する個人および家族を理解し、対象の自己決定を尊重しながら地域でより良い暮らしを創造するための看護実践能力を養う。		
	実習目標及び内容		
	<p>1. 地域包括ケアシステムの実際を理解するとともに、地域における健康の保持増進に向けた支援が理解できる。</p> <p>1) 社会資源の活用、関係機関・職種との連携を理解できる</p> <p>2) 対象の健康の保持増進に向けた看護ができる</p> <p>2. 在宅で療養している対象を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を習得できる。</p> <p>1) 施設と在宅間の継続看護の必要性が理解できる</p> <p>2) 在宅で療養している対象の特徴が理解できる</p> <p>3) 在宅で療養している対象の援助の実際が実施できる</p> <p>3. 地域・在宅における地域包括ケアチームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける。</p>		
評価方法	評価表による評価		